

a 学校教育目標	かしこく なかよく げんきよく	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション(自校の使命)】 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン(自校の将来像)】 児童が満足する学校、保護者が安心する学校、地域が誇りに思う学校、そして教職員が生き甲斐や行き甲斐を感じる学校。									
評価計画												
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方策	学校関係者評価	
確かな学力	基礎・基本の学力向上 すんで学び、よく考え豊かに表現する学力を育てる。	○主体的な学びにつながる授業の実施 ・R80(振り返り)から逆算して考える授業づくり ・ドリルタイムと読み上げ計算による基礎学力の定着 ・ICTの活用	【各種学力調査】 ①単元末テスト(算数)の正答率 85% ②標準学力調査の正答率、全国平均以上100% 【児童アンケート】 ①「算数の授業がよくわかる」 85% ②「算数の授業で、課題解決するとき、見方考え方を使って考えることができる」 85%	85% [100%]	87%		102%	A	【各種学力調査】 ①85%(知識・理解88.3%、思考・判断・表現82.3%) ○授業研究を通して、既習事項を使って新しい問題を解こうとする意識が児童にも育ってきた。 ●图形領域、測定領域、データの活用などに課題が見られた。 【児童アンケート】 ①86% ②90% ○今までに習った見方や考え方を使っていると肯定的に捉えている児童が多い。 ●算数の授業が分からないと答えた児童は、特に計算技能に苦手意識をもっていることが聞き取りで明らかになった。	○ドリルタイムにおける百マス計算、読み上げ計算を継続して行い、基本的な計算技能の習熟を図る。結果の伸びを記録することで、苦手意識をもつ児童も前向きに取り組めるようにする。 ○算数用語や用具の使い方を丁寧に指導し、图形や測定に関する知識が定着できるようにする。 ○単元に関わる既習事項を単元前に整理しておき、振り返る時間をもつ。 ○算数における「見方・考え方」に対する共通認識をもち、教材研究に生かして授業改善を図る。	○	○授業の様子から、郊外では見られない楽しく学習している姿を見ることができた。 ○学級や授業の様子から、児童は楽しく学習している様子である。担任との関係も良好そう。 ○標準学力調査に向けた取組を進めていただきたい。
		○学習規律の徹底(4月中に達成) ・チャイムの遵守 ・学習環境の整備(机の上、筆箱) ・「グー・ヘタ・ピン」の姿勢と返事の定着	【児童アンケートの肯定的評価】 ①「授業の始まりと終わりのチャイムを守っていますか。」 ②「机の上や筆箱など、身の回りを整えて学習していますか。」 ③「名前を呼ばれたら返事をしていますか。」	95%	92%		97%	B	【児童アンケートの肯定的評価】 ①93% ②91% ③93% ○チャイム遵守、机上整理の取組は、5月に比べて徐々に改善してきており、児童の意識に向上が見られる。 ●2時間目や4時間目にチャイムに遅れる傾向が見られる。	○教職員が授業の始まりだけでなく、授業の終わりの時刻を守ることで、次の授業の開始に遅れないようする。 ○チャイム遵守、机上整理の声掛けを継続して行い、意識づくりを行う。 ○できていることや頑張っていることを取り上げて評価し、達成感をもたせる。		
豊かな心	新たな不登校「ゼロ」 地域を愛する心を持つとともに、夢や目標をかなえるための生活習慣を身に付けさせる。	○不登校の未然防止 ・全職員による綿密な家庭連携の実施、関係機関との協働的な連携実施 ・教職員の丁寧な言葉遣い ・学校での居場所の確保	長期欠席児童 昨年度より減少を目指す。 ①不登校児童、9月末9人以下。1月末19人以下 ②今年度からの不登校児童0人 ③「学校に行くのが楽しい。」 肯定的評価85%以上	80%	97%		121%	A	長期欠席児童 昨年度より減少を目指す。 ①100% 不登校児童(30日以上の欠席)、9月末9人 ②100% 今年度からの不登校児童0人(9月末) ③93% ○欠席が増え始めた児童の保護者と積極的に連携を取ったことで、日数の増加を食い止めることができた。 ○児童会執行部主催の異学年交流を行ったり、構成的グループエンカウンターに取り組んだことで、児童に学校に対する安心感をもたせることができた。 ●昨年度の不登校児童は、今年度も引き続き不登校傾向になっている。	○欠席した児童の保護者には必ず電話連絡を行う。 ○長期欠席が心配される児童は、引き続き、積極的に家庭と連携する。3日欠席が続いた場合は、家庭と連携した後、家庭訪問をする。 ○児童会執行部を中心とした全校への取組とともに、各学級でのグループエンカウンターの取組を行い、学級単位の児童同士を増やしながら、心理的安全性を確保する。	○	○不登校の対策として、チーム学校での対応を継続を希望する。 ○保護者が児童のためにどのように対応するかが必要と考える。啓発も含めて取り組んでいただきたい。 ○名前を呼んで挨拶することで、子供たちからも返事がきやすく、自己存在感を高められるため、学校でも取り入れてはどうか。
		○共感的人間関係づくり ・児童会役員による挨拶運動、挨拶週間の実施と振り返り ・i-checkを基に、構成的グループエンカウンターの計画的な実施	【児童・保護者・教員アンケートの肯定的評価】 ①「相手を意識した挨拶ができますか。」 肯定的評価90%以上 ②i-checkの散布図 I「個人の心の安全」の肯定的評価、全国平均(39.7%)以上。 ③「自分にはよいところがある。」 肯定的評価80%以上	85%	95%		112%	A	【児童・保護者・教員アンケートの肯定的評価】 ①86%(児童88%、保護者83%) ②110% ③88% ○児童会執行部のあいさつ運動を通して、相手を意識した挨拶ができるようになった児童はいる。 ○「個人の心の安全」は、構成的グループエンカウンターを通じて、人間関係づくりや学習規律を整える取り組みを行ったことで、教師と児童、児童同士の良好な人間関係を築くことができ、全国平均より上回った。 ●自分から進んであいさつができる児童を増やすよ取組が必要である。 ●自己肯定感が高い児童は多い結果となつたが、数名自分を評価できない児童が存在する。	○児童会主体の「あいさつ運動」やを定期的に行ったり、校内放送で呼びかけたりして、あいさつの大切さを意識づける。 ○職員研修でi-checkの分析を行うとともに、自己肯定感の低い児童を職員間で共有し、自己肯定感を高める声掛けを意識的に行う。 ○個人の努力を表彰する機会を増やすことや、靴そろえの優秀クラスの発表や委員会活動の発表の場を積極的に設けるなど、頑張りを評価できる機会を増やす。		
健やかな体	体力を高め、感染症予防に対する高い意識を育てる。 新体力テスト結果の向上	○運動能力の向上 ・運動量を確保する体育授業の工夫を共有化 ・4月と11月の長座体前屈計測で向上率確認 ・年間を通じて外遊びや縄跳びなどの啓発	【4月・11月の長座体前屈の記録】 ①県及び全国平均値以上 75%以上 【児童アンケート】 ①「運動をすることが好きですか。」 肯定的評価90%以上	75%	73%		97%	B	【4月・11月の長座体前屈の記録】 ①54% 【児童アンケート】 ①93% ○運動をすることが好きという児童は、目標値より上回ることができた。体育や休憩時間で、体を動かすことの楽しさを感じていると考える。 ●長座体前屈は全国平均値よりも大きく下回った	○体育の準備体操では、主運動に繋がる予備運動に遊びを交えることで、運動に対する苦手意識を無くす。「毎月ストレッチ・筋トレ」を提示しながら、運動する習慣を身に付けさせる。 ○2学期末には、5分間走や運動場サーキット、縄跳び運動などを実施し、運動能力の底上げを図る。	○	○体力テストの長座体前屈は他校等の実践を参考にして、改善を図ってはどうか。 ○手洗いの改善は良いことである。それに加えて子供の免疫力が高まるように「三原市の金のルール」を啓発していただきたい。
		○病気や感染症予防に対する行動の向上 ・ハンカチ持参の強化週間を設定 ・ICTを活用した手洗い方法の指導 ・授業や各種便りを活用した啓発	【ハンカチ点検】 ①ハンカチ持参率 90%以上 【児童意識調査の肯定的評価】 ①手洗い実施に関する肯定的評価 90%以上	90%	84%		93%	B	【ハンカチ点検】 ①94% 【児童意識調査の肯定的評価】 ①73% ○重点取組期間を設けて指導を行つたことで、ハンカチを持参する児童が増えた。 ●ハンカチを続けて忘れる児童も一定数いるので、保護者とも連携しながら指導していく。	○ハンカチ持参とともに、ランドセルに予備を入れておくことを、保健だよりや参観日等で保護者に啓発していく。 ○手洗いに関する動画の作成やハンカチ点検等を行うなど、保健委員会を活用した啓発を行う。 ●固定化している児童には担任から連絡する。		
信頼される学校	地域に信頼される学校づくり 地域や家庭の願いに応えるとともに、15年間を見据えた教育を行う。 健康でやりがいをもって勤務できる環境づくり	○コミュニティ・スクールの推進 ・教育課程に沿った取組の充実 ・学校だよりやトピックスでの取組の配信 ○自分事となる服務研修の工夫 ・R80によるまとめヒヤリハットの交流	【児童アンケートの肯定的評価】 ①「田野浦小学校に通つてよかったです。」 【保護者アンケートの肯定的評価】 ①「学校は安心して子どもを通わせることができる教育を行つている。」	90%	98%		109%	A	【児童アンケートの肯定的評価】 ①97% 【保護者アンケートの肯定的評価】 ①99% ○登校時の地域見守り活動により、安心して登校できている。 ○日常のトラブルや体調について、担任、学年、生徒指導担当、養護教諭、管理職等が関与しながら解決している。 ○服務研修では、全職員が研修のふりかえりを記入することで、自分事として考え、不祥事防止に対する決意を新たにしている。 ●肯定的評価ではない児童、保護者が安心できる学校づくりに向けたサポートが必要である。	○継続的に学校だより、コミュニティ・スクールなど等で学校の様子を配信する。 ○トラブルや不安感、不登校に対してチーム学校として対応する。 ○児童のよさをしっかりとほめるとともに、家庭との連携を継続的に行っていく。	○	○2学期の協働活動についての情報を今後も配信していただきたい。 ○やがい等は人によって違うこともあるが、教職員には、継続的に声掛けをお願いします。
		○チーム力を生かした計画的・協働的な業務の推進 ・時間管理と事務作業の計画、精選 ・教材の共有化 ・支持的風土の醸成	【超過勤務 月45時間以内】 ①在校時間一覧表による超過勤務時間 【教職員アンケートの肯定的評価】 ①「現在、やりがい甲斐を感じることができている。」 ②課題に対して、チームとして取り組んでいる。	95%	89%		94%	B	【超過勤務 月45時間以内】 ①9月末 83% ○不祥事事案、生徒指導事案等で超過勤務することはなかった。 ●年度初め、授業研究会等があり45時間を超えている。 【教職員アンケートの肯定的評価】 ①88% ②96% ○おおむね肯定的評価を得ることができた。 ●やり甲斐を感じさせるための工夫が必要である。	○教材研究や学級事務以外の業務をなるべく増やさないように、事案に対し、組織として対応していく。 ○それぞれの職能成長が伸び、やり甲斐を感じることができるように達成感のある経験を積むことができる活動を取り入れる。		